

技術・施行・品質管理 の規格化へ

日本住宅基礎鉄筋工業会

有限責任中間法人日本住宅基礎鉄筋工業会（山口龍二会長）の第1回定時総会が、5月11日に行われた。理事長あいさつの後、学術・名誉社員の紹介とその代表者として東京理科大学教授で工学博士松崎育弘氏があいさつを行った。

松崎教授は住宅基礎鉄筋の歴史を概括した。鉄筋自体の歴史も未だ100年に満たないことを示し、その歴史の約80年目にあたる1966年頃に木造住宅の基礎への適用が初めて始まったことを解説。その契機となったのは地震被害であり、それから現在に至る約20年間で組立鉄筋が普及してきたことを話し、今後は確実な住宅基礎鉄筋の普及拡大を同工業会で行っていききたいと述べた。



その後、平成18年度の事業報告、決算案が述べられた。そして事務局から平成19年度の活動方針と委員会の目標が提示された。技術委員会では主に製造技術の規格化、部材委員会では施行の標準化による基礎の品質向上、総務委員会では基礎鉄筋の設計積算基準作成による品質維持管理運営を統一していくことを目標とした。

基礎鉄筋工業会 東京都新宿区新宿4-2-23

TEL 03-3353-1137